

2020

智辯学園奈良カレッジ

中学部・高等部



本誌はCOCOAR2を利用した、
動画も見れるパンフレットです。
※詳細はP22へ

〒639-0253 奈良県香芝市田尻265 TEL.0745-79-1111 www.chiben.ac.jp/naracollege/

智辯学園奈良カレッジ
中学部・高等部

2020
Chiben Gakuen
Nara College
Junior & Senior High School



本誌はCOCOAR2を利用した、
動画も見れるパンフレットです。
※詳細はP22へ

感謝の心と 堅い絆 ——そして未来へ



誠実・明朗

目標とする人物像

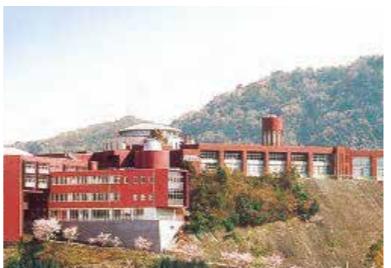
1. 明朗で知性溢れる人
2. 不屈の精神をもって、使命を全うする人
3. 自己を確立しつつ、社会性豊かな人
4. この世に生を受けた幸福を知る人



沿革

- 平成16年4月 智辯学園奈良カレッジ小学校・中学部開校
4月 中学部および小学校第1回入学式
- 平成19年4月 中学部1期生が高等部へ進学
- 平成20年4月 緑栄橋および第2グラウンド供用開始
- 平成21年1月 高校棟供用開始
- 平成22年3月 中学部1期生が卒業
4月 小学部1期生が中学部へ進学
4月 第2体育館供用開始
- 平成25年4月 小学部1期生が高等部へ進学
12月 講堂棟竣工
- 平成26年6月 創立10周年記念式典挙行
- 平成28年3月 小学部1期生が卒業

学校法人 智辯学園



智辯学園中学・高等学校

奈良県五條市野原中4丁目1番51号
TEL 0747-22-3191

智辯学園和歌山中学・高等学校

和歌山県和歌山市冬野2066番地の1
TEL 073-479-2811



AR

学校法人 智辯学園 理事長 藤田 清司

あたりまえのことを、あたりまえに

二上山の麓に学舎を定めて十有余年、カレッジ教育の基礎も定まり、いよいよその真価が問われるときを迎えました。

この間、グローバリゼーションの流れの中、日本社会は刻々と変化し、子どもたちを取り巻く環境や子どもたちの気質も大きく変わりました。私自身、これから社会のあり方が気にかかるのはもちろん、活力と節度ある社会の基盤をつくる教育の責務の大きさを自覚し、渾身の力を振るって、気鋭の若者を今後も世に送り出す決意であります。

智辯学園は、開校以来“愛のある教育”という教育の原点を見つめ、“誠実・明朗”“真心のある明るく元気な子”に育って欲しいとする親の願いを叶える教育を進めてきました。この建学の精神のもと「それぞれの子どもが持つ能力の最大開発」と、「宗教的情操に基づく心の涵養」という二つの重点目標を掲げ、勉学・スポーツ・芸術活動を通して、「感謝」の心と、「相互礼拝・相互扶助」の精神を養い、社会に貢献できる人間を育成してきました。

とりわけ、日常の生活では、挨拶・言葉・礼儀・服装など、今まで社会人と

してごく普通に持っていた規範意識を、今もあたりまえのこととして身につけられるよう求めてきました。社会がどのように変わろうとも、変わってはならない「不易」のものこそが、秩序ある社会の土台だと考えるからです。いかなるときも、「ぶれない」「揺れない」、これが智辯教育の真価であり、自信と誇りの源だと自負しています。

また、やり抜くための「厳しさ」も学園教育の特質の一つです。これから時代に生き、自己実現を図るには、厳しさを持たねばなりません。その厳しい日常を支えるのが、努力を惜しまない教員と保護者・生徒のつくり出す三位一体の関係です。克己の心で精勤する個人と、感謝と扶助の心で支え合う全体、この二つが縦糸・横糸に絡み合い、一体となって織りなす教育であります。

学校は勉強するところであり、人間の土台を育てるところであると考えています。「あたりまえのことを、あたりまえに」続けながら、生徒に寄り添う教育を通して、未来を切り開く高い観智と、豊かな人間性を備えた人材を育成し、更なる飛躍をめざします。

「不易と流行」

いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを、取り入れていくこと。

常に新しく変化している、その時々の流行を取り入れることこそが不易の本質です。

奈良カレッジでは、長年培ってきた歴史こそが、この「不易と流行」そのもので、時代の先を読み取り、社会に通じる人間力の育成を図ってきました。

また、宗教教育を土台にした礼儀作法、思いやりの心など、内面的な部分も鍛えられ、高いレベルの人間教育を実現させています。

流行

- キャリア教育
- 教養講座
- グローバル教育

▶ 詳細は8ページ



宗教教育で培われた 確かな力

不易

- 情操教育
- 徹底した個別指導
- 三位一体の教育

▶ 詳細は7ページ

志をもって 未来の社会を 生きる力



不易



流行

情操教育

週に一度「宗教」の授業があります。この授業を通して、人や自然に対する優しさを学び、感謝と奉仕の精神を育みます。さらに、高校段階では倫理観や人生観に関わる学習へと発展します。あらゆる機会を通じて「情操を育む教育」を行い、感謝と奉仕のできる人間に成長できるよう努めます。

徹底した個別指導

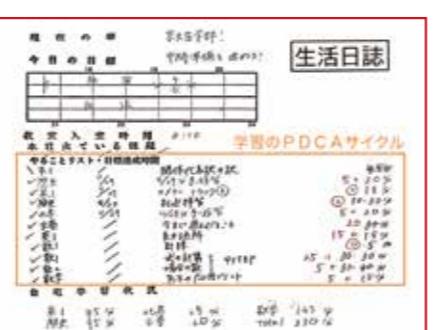
知力の徹底的訓練を期す

60分授業と年間250日の授業時間を確保し、有効かつ柔軟に授業を進めます。特に国語・数学・英語の基礎力養成に重点を置き、高校段階の応用力を必要とする学習に備えます。さらには、大学入試制度により層対応したカリキュラムや学習内容を実施することが主な目的です。



教員による生活日誌と添削指導

生徒それぞれが日誌を作り、教員が確認します。また生徒自身が日々やることを書き上げ、それができたかできていないかを自らチェックします。添削指導においては、問題の解き方や、ミスした箇所を細かく添削することで、生徒の弱点や苦手箇所を分析し、徹底した個別指導をしていきます。



三位一体の教育

生徒と保護者、そして教員の信頼と協力があってこそ理想の教育が開花します。入学・進路選択・進路決定の時期や各学期末に三者面談を行い、生徒の将来について真剣に話し合います。また、教員が学校での生徒の様子を保護者に伝えることも重視しています。保護者と教員が共通の認識を持って、生徒に向き合うことがよりよい結果を生み出します。



キャリア教育

中3の一年間を通して、一人ひとりの夢や志を具体化するプログラムを行っています。各自がめざす職業分野ごとのグループに分かれて、その仕事について探究するとともに、実社会で活躍されている方に直接インタビューを行い、その成果を互いに発表し合います。このプログラムによって、自分が描く「未来の仕事」について決意を固めます。



年間プログラム(中3)

- | | |
|-----|--|
| 1学期 | ● 仕事グループの結成
● 職業分野ごとの調べ学習
● 仕事人インタビューの企画・準備
● 仕事人インタビュー実施 |
| 2学期 | ● キャリア教育発表大会
● ナレッジキャピタルでの社会見学(未来の仕事を考える)
● ナレッジイノベーションアワード |
| 3学期 | ● 1600文字の決意表明文集製作(未来の仕事に向けた志望理由書) |

教養講座

自らの教養の幅を広げ、将来のキャリア観を育むために、中1・中2の二年間を通して、さまざまな分野の専門家による体験型の講座があります。医学や考古学、知的財産権など多岐にわたっており、自分で希望する講座を選択する形となっています。

- 教養講座 2018年度開講講座一覧
- 考古学講座
 - 知的財産講座
 - 数学講座
 - 医学講座
 - 日本文化講座
 - 空間認識学講座
 - 文学講座
 - 健康科学講座
- 旧石器をつくろう
知的財産とは何か
折り紙の数学
-数学って何を研究しているの?-
医師への道と医師の仕事とは?
経師に教わる和本の世界
レゴブロックを組み立てよう
料理の魅力を伝えるには
食と健康
-究極の豆腐づくり-

グローバル教育

海外留学等でグローバル人材を育てる教育

これからの時代、世界中のさまざまな人々と手を携えながら新しい価値を築き上げようになっていきます。奈良カレッジでは、国際言語としての英語を重視したカリキュラム展開や、視野を広げるための国際交流行事の開催はもちろんのこと、一步踏み込んだ学習プログラムを実施することで、グローバル化する社会で多様な文化をもつ人々と協働できる人材(グローバルトップリーダー)の育成をめざしています。



高1 韓国留学生との交流・アメリカ短期留学

高2 イギリス短期留学

高2 アメリカ交換留学生受け入れ

校外コンテストへの参加

「キャリア甲子園」(全国大会)

- テーマ別選考会で最優秀校となり
ファイナル進出(2018)

「ナレッジイノベーションアワード」

- 中学生アイデア部門グランプリ(2015)
- 優秀賞(2016)
- 高校生アイデア部門優秀賞(2016・2017)

「少年の主張」(奈良県大会)

- 最優秀賞(2014・2016)
- 優秀賞(2014・2015・2016)

「エコノミクス甲子園」(奈良県大会)

- 優勝(2014)
- 準優勝(2015)

「私の折々のことばコンテスト」

- 高校生の部鷺田清一賞(2016)



大らかな自然に囲まれたキャンパスで
一人ひとりが輝く一日がはじまる。

School Map



Winter Style



Summer Style



年間行事

School Event

一人ひとりが輝き、協力し合う経験が人間力を培う。



本学園には中・高6年一貫コースと、高等部1年次にそのコースに編入する高等部(編入)があります。中・高6年一貫コースへは内部進学(カレッジ小学部卒業)児童と他の小学校卒業児童が入学し、高等部編入には他の中学校卒業後、中・高6年一貫コースに合流する生徒が入学します。6年間または3年間、互いに刺激を与えながら望みうる最高の大学をめざして学びます。

志をもって
未来の社会に貢献できる人へ

流行の教育実践

教養講座で実際の仕事に触れ
志とは何かを考える時期

キャリア教育
により志を育み
その決意を
表明する時期

校外のコンテストや
グローバル研修に参加するなど
広い世界の中で
自己研鑽に励む時期

自らの志を実現
するために
最適な大学を
選択する時期

志の実現に向けて
更なる成長を遂げる時期
～各自が志望する大学へ～

不易の教育実践

生活日誌による
学習姿勢・学習態度の習得

Claasiによる自己管理の徹底

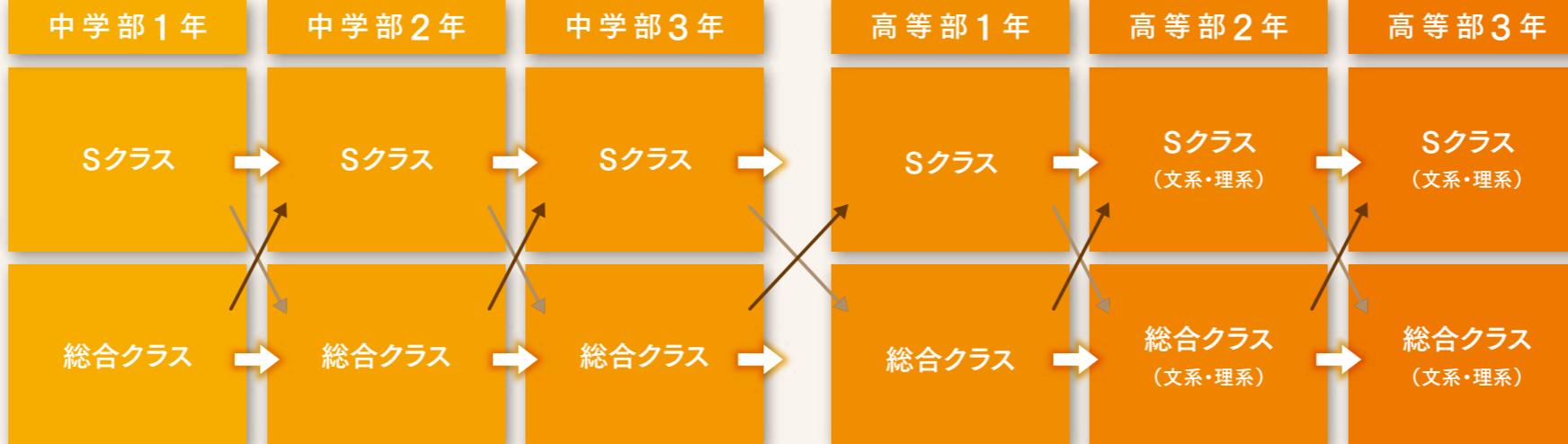
大学入試に必要な
eポートフォリオの作成

大学入試改革で増加する
国公立大学推薦入試への実績
(過去2年分 計17名)

中・高6年 一貫コース

募集人員 約80名

6年間で可能性を最大限に引き出す
一貫教育の魅力は、従来の枠組みを取り払うことで、教育内容を精選し、無用な重なりをなくし、必要なところでは反復によって定着を徹底できることです。さらに、発展的な学習を取り入れ、余裕のある授業時間数を活かした効果的な指導を進めることができます。



●中学1年生の時間割(例)

	月	火	水	木	金	土
8:40~ 8:50					読書タイム(SHR)	
8:50~ 9:50	数学	英語	音楽	英会話	理科1	体育
10:00~11:00	体育	数学演習	書写	体育	英語	数学
11:10~12:10	国語1	理科2	国語1	美術	数学	特別活動
12:10~12:45					昼休み	
12:45~13:45	理科1	数学	英語	地理	地理	英会話
13:55~14:55	宗教	地理	数学	国語2	技術	
15:05~16:05	英語	国語2	理科2	家庭	英語	

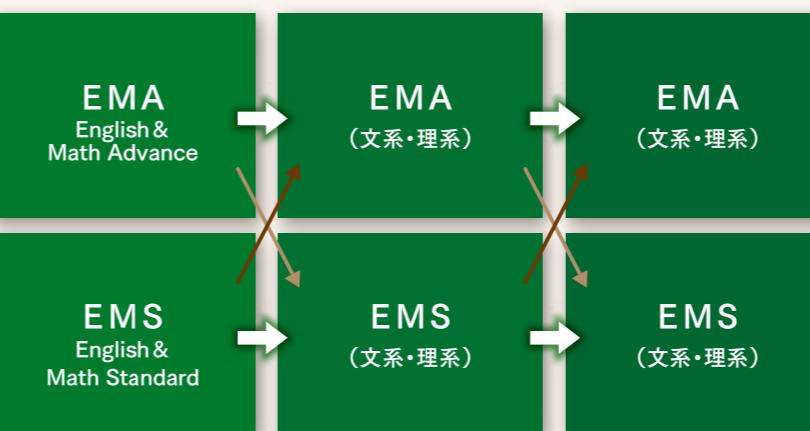
※最終下校時間

■中学部 17:30(ただしクラブ活動のある日は18:00) ■高等部 18:30

高等部(編入)

募集人員 若干名(約40名)

志の実現に向けて各自が志望する大学をめざす
ホームルームクラスは一つとし、高1では高校教材への慣れや
習得のためにEMAとEMSは合同で授業を行います。高2・
高3では、一部の教科において授業を6年一貫コースとともに
行います。



私立大学への合格実績(2018年度)

上智大学	1(1)	近畿大学	50(6)
学習院大学	1(1)	龍谷大学	17(3)
明治大学	2(0)	京都産業大学	10(2)
東京理科大学	1(0)	兵庫医科大学	1(0)
関西大学	27(2)	大阪歯科大学	2(0)
関西学院大学	22(4)	大阪薬科大学	5(3)
同志社大学	20(0)	京都薬科大学	2(0)
立命館大学	27(0)	神戸薬科大学	4(1)など

※大学の右側にある数字は、合格者の総数(推薦での合格者数)です。



卒業生との座談会

今春、志望大学に合格した4名の「先輩」が母校を訪問。久々に会った仲間とともに奈良カレッジでの6年間を振り返ります。

中高6年間の一番の思い出

【藤田校長】今日は奈良カレッジ第10期卒業生の座談会ということで集まってくれてどうもありがとうございます。さっそく始めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。まずは、中高6年間の一番の思い出というテーマから入りたいと思いますが、楽しかった行事でも良いですし、失敗談でも結構です。大中さんはどんなことが強く印象に残っていますか。

【大中】学校外の取り組みになるのですが、京都大学が高校生のために開講しているELCAS(エルキャスー大学での最先端科学の体験型学習講座)に高校2年生の時に参加させてもらったんです。

【全員】「ええー!」「それは知らなかった!」「すごい!」



【大中】これについて思い出に残っていることが2つあります。1つは、高校1年生の時にこのプログラムに初チャレンジして選考に漏れ、悔しさから「次こそは」という気持ちで理系科目をかなり頑張ったので、高校2年生の時に合格できた時はすごく嬉しかったことを憶えています。もう1つは、私は医者になることを目指しているのですが、ELCASで靈長類の研究に参加したことが、ヒトとは何かということを見つめ直す良い機会となり、医者を目指すモチベーションが高まったと思います。

【藤田校長】生物への興味は担任で生物担当である渡辺先生を通じて高まったのかな。

【大中】そうですね。このELCAS自体も渡辺先生が紹介してくれたんです。

【渡辺先生】振り返ってみると、どんなプログラムを紹介したときも、「大中さんなら何かやってくれるんじゃないかな」という期待を持たせてくれたんです。

【藤田校長】このELCASへの参加は後輩の生徒にも引き継がれていますね。その後輩はとても良い経験

ができたと、ELCASを紹介してくれた大中さんに感謝していましたよ。それでは次に松下さんお願ひします。

【松下】高校2年生で文化委員会の委員長になりましたが、それまでの歴代の委員長は、文化委員を長年務めた上で委員長になったのに対し、私はそういった経験がないまま委員長になつたんです。それだけに、何もわからないながら委員会を運営し、文化発表会を成功に導かないといけないという状況でした。それまで生徒の立場でモノを言っていた自分が、学校の立場に立って行事を企画することになったんです。もう少し具体的に言えば、生徒の立場で校則に対して意見を言っていた私が、初めて先生に近い目線でモノを觀ることになったんです。これは大きな成長の機会でした。他にも、大きな行事を動かすことの大変さも身に浸みましたし、そんな時に先生方が協力してくださることにも感謝できるようになりました。

【藤田校長】素晴らしい話を聞かせててくれてありがとうございます。文化委員会を進めていくにあたって、仲間同士で意見が食い違い、衝突することもあったのかな。

【松下】ありましたね。ぶつかることもあったし、逆に意見が出ないで困ったこともあります。

【藤田校長】君たちの後輩の生徒会メンバーも「先輩たちのように頑張りたい」と思って、気持ちを継いでくれていますよ。こういう雰囲気は良き伝統として受け継がれていくものだからね。それでは次に、松下さんはどんなことに力を入れていましたか。

【松下】模擬国連に大中さんと一緒に参加したことです。奈良カレッジから模擬国連に参加したのは私たちが初めてで、わからないことだらけだったので、模擬国連に力を入れている他校に話を聞きに行ったり、奈良カレッジの社会科の先生全員に集まつてアドバイスをもらったりしました。学校ぐるみで応援してもらいい、自分たちでもかなり準備したつもりだったのですが、参加校はどこも桁違いにハイレベル

【大中】漠然としているのですが、一番力を入れたことはどんなことにも積極的に参加しようと掛けたことです。そのように変わっていったきっかけは、中学3年から高校2年の3年間所属した生徒会活動ですね。さきほども話として出ていましたが、全然意見が出ないときに自ら意見を言ったり、学校行事の多くは生徒会が中心になって積極的に引っ張っていかなければなりません。そんな時、「自分はこう感じる」とか、「こんな生徒企画をしたらいいじゃないかな」といった形で意見を言ううちに、中高6年間かけて積極性が身についていったと思います。

【藤田校長】その活動の中で先輩から学んだことはどんなことですか。

【大中】この学校の良いところは、先輩と後輩の関係が近いというところだと思います。具体的な思い出としては、中学3年生の時、生徒会の高校2年の先輩が「高校生のクラスはこんな雰囲気だよ」と言って、高校2年生の教室に連れて行ってくれたことがあったんです。少々驚きましたが、どこか嬉しい気がしたんです。

【藤田校長】その先輩と大中さんの関係はとてもアットホームな雰囲気だったんだね。

【大中】そうですね。生徒会の活動も無理矢理やらされている感じではなくて、自分から意見を言おうという気持ちになりました。

【藤田校長】君たちの後輩の生徒会メンバーも「先輩たちのように頑張りたい」と思って、気持ちを継いでくれていますよ。こういう雰囲気は良き伝統として受け継がれていくものだからね。それでは次に、松下さんはどんなことに力を入れていましたか。

【松下】模擬国連に大中さんと一緒に参加したことです。奈良カレッジから模擬国連に参加したのは私たちが初めてで、わからないことだらけだったので、模擬国連に力を入れている他校に話を聞きに行ったり、奈良カレッジの社会科の先生全員に集まつてアドバイスをもらったりしました。学校ぐるみで応援してもらいい、自分たちでもかなり準備したつもりだったのですが、参加校はどこも桁違いにハイレベル

で、全く歯が立たなかったんです。このことがとても悔しくて、世の中にはものすごい高校生がいるんだなと身をもって知らされました。それによって向上心が芽生え、実力を発揮しきれなかった経験がその後の推進力になったように思います。社会科の先生には、本当にお世話になりました。会場である東京まで付き添ってもらったり、模擬国連直前の修学旅行中には、夜遅くまでホテルのロビーで討論に付き合ってもらったりしました。

【渡辺先生】修学旅行中、毎日2時間くらい社会科の先生がロビーで話し合いに付き合ってくれていましたね。傍から見えていた大変そうではありましたが、同時に楽しそうにも見えましたよ。

智辯学園の心の教育について

【藤田校長】それでは少しずつテーマを掘り下げていきたいと思いますが、6年間の学校生活を通して、智辯学園の心の教育についてはどう感じてきましたか。鈴木さん、お願ひします。

【鈴木】智辯学園と言えば「感謝の心を大切に」ですが、この6年間でその教養が自然と自分の中に染み込んでいた感じがしています。思春期の中学生の頃には複雑な思いが入り交じる中、親や先生、そして友達に対しても素直になれない自分がいて、実は自分に嘘をついているような感じが嫌だったんです。そんな時期、「感謝の気持ちを大切に」と言われるたびに、「そう言えば、毎日お母さんにご飯作ってもらっているな」とか「友達に支えられているな」といったことに色々と気付かされますし、この6年間で自分自身が相手に対して素直になれたと思います。あと、「ご宗祖さまのお言葉」に「努力もしないのにどうして良い結果が得られますか」という言葉があり

ますが、テスト期間中の朝にこれが放送で流れると、「本当にその通りだな。今度のテストはもっと努力しないといけない」と思いました。(笑)

【藤田校長】ちゃんと自分自身の現状を考えて、素直に受け入れる気持ちになっているからこそ、その言葉が心に入り込んで来るんだと思いますよ。私たち教師も一緒です。職員室で『ご宗祖さまのお言葉』を聞いていると、私も含めたそれぞれの教師が自分自身のあり方を反省し、「この言葉の通り、しっかり行動しなければ……」と考えたりする機会になっているんですよ。

【渡辺先生】お言葉の中に、「してやるのではなく、させていただくのです」というフレーズがあります。6年間いろいろなことがありましたが、君たちのような生徒がいるからこそ、自分たち教師がやっていけるのだとつくづく感じたものです。日々反省し、前向きに進んでいこうとする君たちの姿を観ていると、その気持ちが伝わってくるだけに、「明日も頑張ろう」という気持ちが起こったものです。

【藤田校長】親に対して素直になれないのは、誰だって多かれ少なかれあると思います。そんな時、実は感謝していくでもどこか恥ずかしかったり、照れくさったりで、言葉にできないもどかしさがあります。そんな中で、行動にはすぐに表れなくても、心のどこかで前向きに考えていきたいと願う自分自身の背中を押してもらっているんじゃないかな。ぜひ、卒業してからも『ご宗祖さまのお言葉』を思い出してくださいね。



【渡辺】月に一度の感謝祭では、理事長先生が話をしてくれますよね。高3の時にあった感謝祭で、理事長先生がイチロー選手の話をしてくださいました時、「目標は口に出して宣言してこそ実現する目標になる」という話がありました。あのお話は大学受験期の自分の胸に刺さりましたね。みんなの前で宣言して初めて、目標を叶える原動力が生まれるんだということがそのとき分かりました。そういう人生のプラスになるお話を月に一度聞けて、そのたびに「そうだな」「そういうこともあるんだ」といった形で、自分のモチベーションを上げてもらえたように思います。

奈良カレッジの先生について

【藤田校長】それでは、最後の質問になりますが、皆さんにとって奈良カレッジの先生とはどのような存在ですか。それでは、鈴木さんからお願ひします。

【鈴木】私は先生の大切さに気付いたのが遅く、高校



2年生になってからでした。英・数・国語の自主課題を毎日提出するようになって、解らないところがあると細やかに説明してもらったりすると、たまに応援コメントを付けてもらったりすると、それがすごく嬉しくて、励みになりました。奈良カレッジでは多くの先生と接する機会があったんですが、みんないい先生だなと思いました。一番感動したのは、センター試験の前日に、自主登校して勉強して帰る時に職員室へ寄ったら、いろんな先生から「明日頑張ってね」と励まされ、お菓子までもらったことが大きな安心感となつたのを覚えています。そしてこんなに良くしてくれる先生方のためにも頑張ろうと思ったんです。本当にいい先生ばかりです。

【渡辺先生】皆さん一生懸命やっているからこそ、私たち教師も一生懸命できたんだと思います。

【藤田校長】教科担当として個人添削をやっていると、授業のどこで生徒がつまずいているのかが分かるし、生徒のひたむきさが伝わるのでその熱意に全力で応えようと考えます。そういう意味では、教師は生徒に身に引き継いでもらっているような一面がありますよね。皆からもらっている言葉からも十分に素直さや真面目さが伝わるのですが、奈良カレッジの生徒は本当にまっすぐ頑張り屋さんなんだとそれぞの先生たちは感じていると思いますよ。そのことはぜひ憶えておいて欲しいな。それでは最後に渡部君お願いします。

【渡部】奈良カレッジのほとんどの先生は、生徒一人ひとりのことをよく憶えてくれていると思います。例えば、中学生の時に一年だけ担当してくれた先生が、高校生になってからも憶えてくれていて、「おい渡部、元気にしてるか?」といった形で声をよくかけてくれたんです。また、他にも中学生の時に国語を担当してくれた先生が、大学受験の自己推薦文を書く手助けをしてくれたんですが、校正する際に私の性格をしっかりと憶えていて、それを元に指導してくれたんです。そんなことからも、奈良カレッジの先生は生徒一人ひとりをよく見てくれているんだなと思ったんです。それだけ親身になって生徒のことを考えてくれているのだと、6年間が終わった今それを強く感じましたね。

【藤田校長】今日こうしてもらった嬉しいコメントは、パンフレットに掲載する前に職員室の先生たちにまづ伝えないといけないね(笑)。生徒たちがこんな風に色々なことを私たち教師はもっと意識し、日々の教育に向き合っていかないといけないというのが、今日の私の率直な感想です。今日は素晴らしいエピソードを沢山ありがとうございました。大学に進学してもしっかり頑張ってくださいね。

【藤田校長】今日こうしてもらつた嬉しいコメントは、パンフレットに掲載する前に職員室の先生たちにまづ伝えないといけないね(笑)。生徒たちがこんな風に色々なことを私たち教師はもっと意識し、日々の教育に向き合っていかないといけないというのが、今日の私の率直な感想です。今日は素晴らしいエピソードを沢山ありがとうございました。大学に進学してもしっかり頑張ってくださいね。

